

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
大豆	吸実性カメムシ類	やや少	やや少
ばれいしょ	アブラムシ類 ジャガイモガ ヨトウムシ類、オオタバコガ	多 やや多 やや少	多 やや多 並
いちご (本圃)	うどんこ病 炭疽病 ( <i>G.cingulata</i> ) アブラムシ類 ハダニ類 ハスモンヨトウ	並 並 並 並 並	並 並 並 並 並
ブロッコリー	コナガ ヨトウムシ類 オオタバコガ	やや少 並 やや少	やや少 並 並
レタス	ハスモンヨトウ オオタバコガ	並 やや少	並 並
かんきつ	青かび病、緑かび病 ミカンハダニ	やや少 やや多	やや少 やや多

【発生予報】 本文の( )内は平年値

## 大豆

### 1. 吸実性カメムシ類

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(9筆)の結果、寄生株率は0.2%(2.7%)、株当たり虫数は0.0頭(0.1頭)、発生圃場率は11.1%(27.1%)であった。

イ 10月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、寄生株率は40.0%(36.0%)、株当たり虫数は0.66頭(0.60頭)であった。

## ばれいしょ

### 1. アブラムシ類

#### (1) 予報内容

発生程度 多

#### (2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は3.2%(0.6%)、発生圃場率は40.0%(12.4%)であった。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫は塊茎えそ病などのウイルス病を媒介するので発生初期からの防除を行う。

イ 下位の葉裏に寄生が多いので、薬剤散布は葉裏に薬液が十分かかるようにする。

## 2. ジャガイモガ

### (1) 予報内容

発生程度 やや多

### (2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(20筆)の結果、被害株率は1.9%(0.4%)、発生圃場率は25.0%(10.1%)であった。

### (3) 防除上注意すべき事項

土中のいもが産卵を受けないよう土寄せを十分に行う。

## 3. ヨトウムシ類(ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ)、オオタバコガ

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(20筆)の結果、被害株率は2.2%(7.3%)、発生圃場率は25.0%(43.4%)であった。

イ ハスモンヨトウのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は10月3半旬以降増加している(図)。

ウ オオタバコガのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は、10月2半旬以降増加し平年よりやや多く推移している(図)。

エ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。

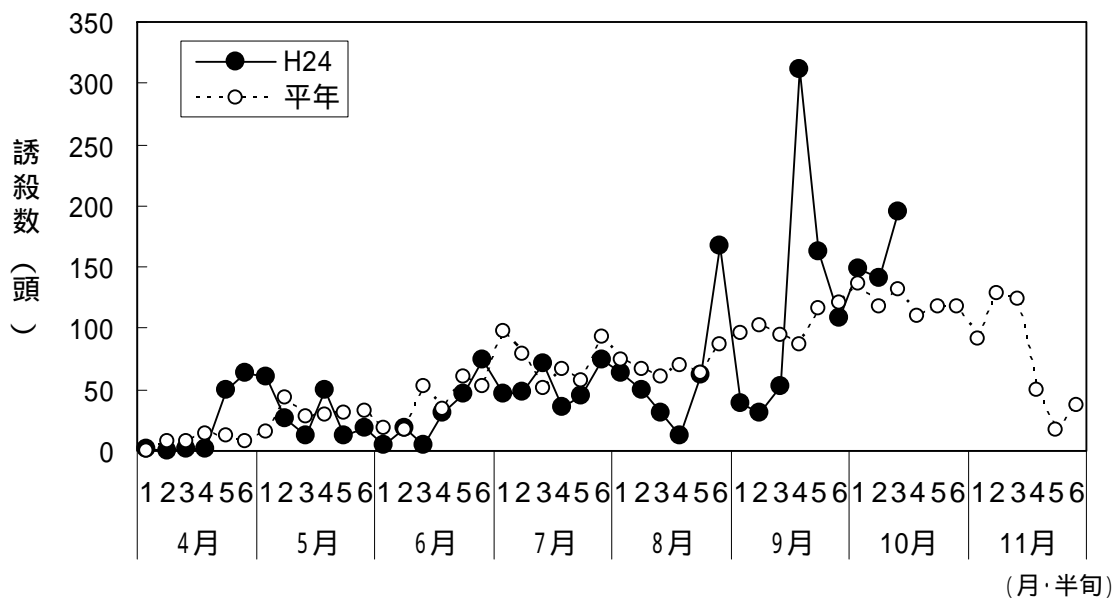


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越町)  
平年: H14~23年の平均値(最大・最小値除く)

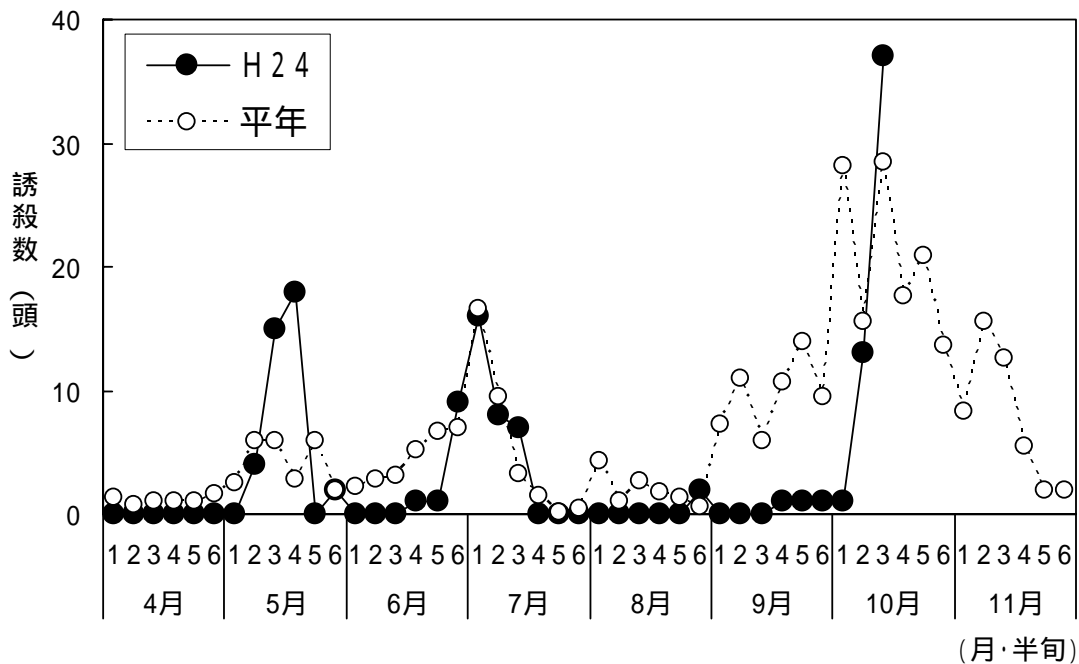


図 オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越  
H22より粘着板からファネルトラップに変更  
平年: H14~H23の平均値(最大・最小除く)

## いちご

### 1. うどんこ病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(26筆)の結果、発生を認めなかった(過去10ヵ年平均発病株率0.0%、発生圃場率0.4%)。

#### (3) 防除上注意すべき事項

- ア 果実への感染を防ぐため、定植後から11月下旬までの予防散布に重点をおく。
- イ 罹病葉や不要な下葉はできるだけ除去し、圃場外へ持ち出し、処分する。
- ウ 薬剤は、古葉等を除去処分した後に、葉裏や下位葉にも薬剤がむらなくかかるように十分量を散布する。
- エ 薬剤耐性菌発達の防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

### 2. 炭疽病 (*G.cingulata*)

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(26筆)の結果、発病株率は0.2%(0.1%)、発生圃場率は3.9%(6.9%)であった。

### 3. アブラムシ類

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(26筆)の結果、寄生株率は1.5%(1.6%)、発生圃場率は23.1%(17.1%)であった。

#### 4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(26筆)の結果、寄生株率は1.7%(2.0%)、発生圃場率は15.4%(19.4%)であった。

#### 5. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(26筆)の結果、食害株率は5.7%(9.3%)、寄生株率は2.8%(2.3%)、発生圃場率は57.7%(71.3%)であった。

イ フェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は10月3半旬以降増加している(ばれいしょの項参照)。

ウ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。

### ブロッコリー

#### 1. コナガ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は1.7%(過去5カ年平均寄生株率2.9%)、発生圃場率は16.7%(25.0%)であった。

#### 2. ヨトウムシ類(ハスモンヨトウ、ヨトウガ)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(12筆)の結果、ハスモンヨトウの寄生株率は1.1%(過去5カ年平均9.6%)、発生圃場率は16.7%(53.3%)であった。

また、ヨトウガの寄生株率は3.3%(過去5カ年平均2.6%)、発生圃場率は33.3%(20.0%)であった。

イ ハスモンヨトウのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は10月3半旬以降増加している(ばれいしょの項参照)。

ウ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。

#### 3. オオタバコガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(過去5カ年平均寄生株率0.5%、発生圃場率6.7%)。

イ フェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は、10月2半旬以降増加し平年よりやや多く推移している(ばれいしょの項参照)。

ウ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。

## レタス

### 1. ハスモンヨトウ

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は1.0%(0.7%)、発生圃場率は8.3%(11.7%)であった。

イ フェロモントラップ(諫早市)による誘殺量は、10月3半旬以降増加している(ばれいしょの項参照)。

ウ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。

### 2. オオタバコガ

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率0.5%、発生圃場率7.4%)。

イ フェロモントラップ(諫早市)による誘殺量は10月2半旬以降増加し、平年よりやや多く推移している(ばれいしょの項参照)。

エ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。

## かんきつ

### 1. 青かび病、緑かび病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率1.3%)。

イ 向こう1か月の降水量は平年並の見込みである。

### 2. ミカンハダニ

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は5.0%(3.6%)、発生圃場率は44.4%(32.0%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

【参考】

気象

(平成24年10月12日発表 1か月予報 福岡管区气象台)

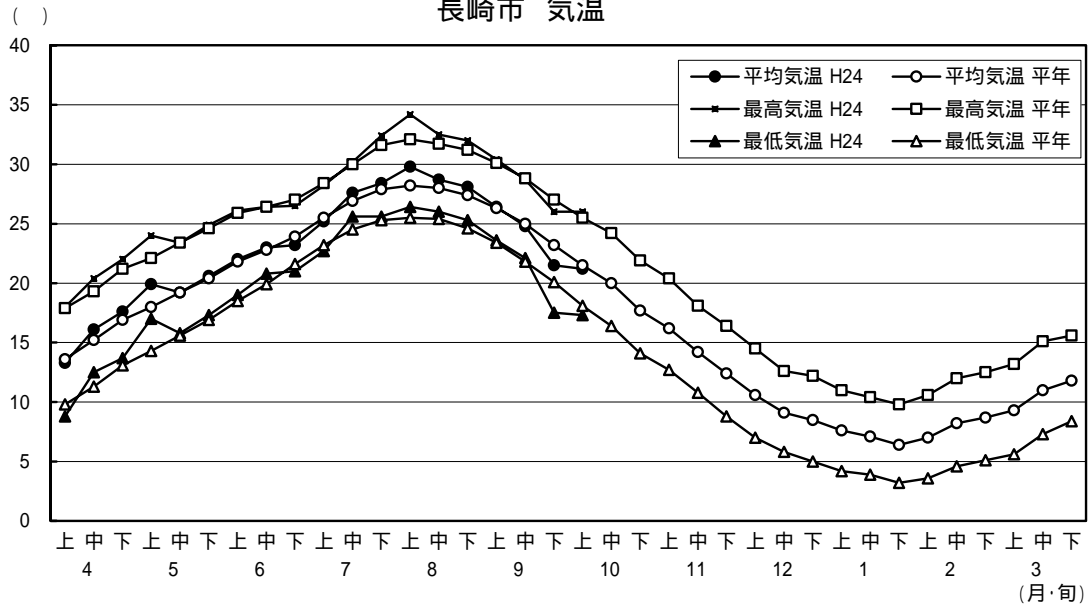
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	30	30	40
降水量	30	40	30
日照時間	30	30	40

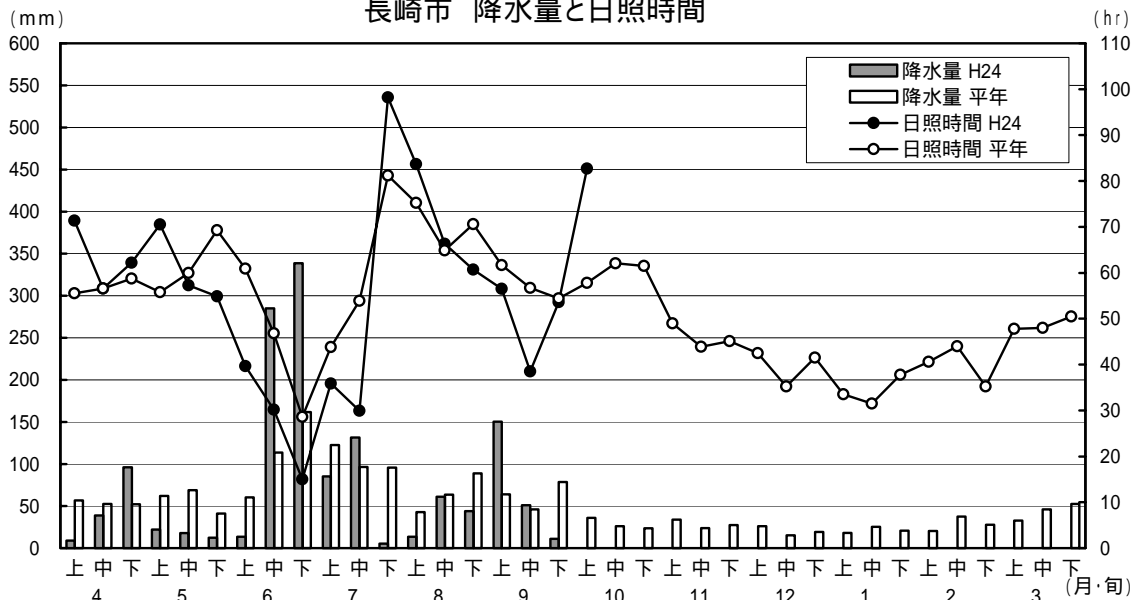
予報対象地域：九州北部地域

平成24年度の気象経過 (長崎海洋气象台)

長崎市 気温



長崎市 降水量と日照時間



病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnp.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027